農事組合法人　水土里（みどり）　代表理事 清水 清司（富山県滑川市）

北陸農政局長賞（単位収量の部）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差（地域の平均単収）
やまだわら	17.9ha	699kg/10a	132kg/10a（567kg/10a）※

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】　　理事

○　農事組合法人（理事：3名うち2名が作業に従事、繁忙期には、パート4名を雇用）

※農家3戸で、農事組合法人を設立。

【作付品目】

○主食用米　コシヒカリ（アルギットを含む）　13.5ha、富富富　7.5ha

○飼料用米　やまだわら　17.9ha

○大豆　2.5ha　はとむぎ　1.3ha　枝豆　1.3ha　野菜　0.95ha

【取組のきっかけ】

○　平成24年から、実需者（飼料業者）の要望で飼料用米（てんこもり）の栽培を開始したが、「やまだわら」が多収品種であると聞き平成27年から、品種転換を開始し令和元年から、「やまだわら」に一本化。

【多収のポイント】

○　肥培管理については、田植え同時側条施肥と田植え1か月後に、硫安を1回（10kg/10a）、さらに1か月後に1回（10ka/10a）の計2回の追肥を行うとともに、湛水管理で強めの中干しは行わないことにより、単収増加に取り組んでいる。

○　投げ込み方式の除草剤を1回、使用し雑草の状況を見ながら、液剤の除草剤を6～7月頃に1回散布することにより、雑草の発生を抑え、単収の増加にも繋がる。

【コスト削減等のポイント】

○　密苗の育苗により、少ない苗箱数（6枚/10a）で済むため、苗運搬の省力化や育苗のコストの低減を図っている。

○　飼料用米のほ場を固定し、主食用米の収穫後に飼料用米を収穫することにより、作業の効率化と主食用米へのコンタミを防止している。

○　出荷については、フレコンによる運搬等のコスト削減を行うとともに、飼料業者が資材及び輸送料を負担するように、契約を結んでいる。（飼料業者と直接契約を結び、飼料用米を販売することにより、経費を削減）